

大学名等	山形大学大学院医学系研究科
教育プログラム・コース名	東北広域次世代粒子線治療エキスパート医師養成コース (正規課程) (テーマ①)
対象職種・分野	医師
修業年限(期間)	4年
養成すべき人材像	重粒子線、陽子線、中性子捕捉など粒子線治療治療を使いこなしつつ、小児から高齢者まで全ライフステージに対応したがん医療の中核を担う放射線治療のリーダー。元々放射線腫瘍医は種々臓器の希少がんや小児AYA世代のがん、高齢者がんなどの診療にあたっており、リーダーに適任の職種と考える。
修了要件・履修方法	座学はISTU e-learningを活用する。粒子線演習は、山形大学医学部東日本重粒子センターで行い、QST病院・南東北病院などの施設とも連携して行う。
履修科目等	<必修科目> 共通授業科目(9単位)、臨床腫瘍学特論Ⅰ(2単位)、臨床腫瘍学特論Ⅱ(2単位)、放射線腫瘍学トレーニングⅠ・Ⅱ(計10単位)<選択科目> 臓器別臨床腫瘍学特論・腫瘍関連学際領域特論(計4単位)、放射線腫瘍学トレーニングⅢ(4単位)、粒子線治療トレーニング(5単位)、全ライフステージ対応がん医療習得コース(2単位)
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医(放射線腫瘍学会)の取得を目指す。
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	このコースの特徴は次世代放射線治療である粒子線を習得しつつ、小児がん、希少がん、高齢者のがん治療にも対応出来る今までに無かった放射線治療の専門家を育成するものである。希少がんや小児がんなど、習得が難しいものは東北がんネットワークの持つ多施設TVカンファレンスシステムをフル活用して行う。
指導体制	放射線医学講座放射線腫瘍学分野(医師9名のうち先行施設での粒子線治療経験者7名在籍)と重粒子線医学講座が中心となって指導に当たる。陽子線、中性子線は南東北病院と連携する。
修了者の進路・キャリアパス	放射線治療専門医、がん治療認定医を取得すると共に、東北各地に留まらず、全国の主要粒子線施設でリーダーとなる。また、山形大学における次世代重粒子線治療は海外への輸出も開始されており、海外での指導を通じて医療の国際化も図る。